

古賀の「現場」から県政を推進!

福岡県議会議員
【古賀市】

田辺かずき 県政報告

古賀発! ただいま
県政刷新中!

第11号

2012年度 総集編
2013年4月発行

<田辺かずき事務所>
〒811-3103 福岡県古賀市
中央 1-6-41-203
TEL : 092-692-8510
FAX : 092-410-7730
メール: challenge@
tanabe-kazuki.jp

【4ページ拡大版】
■県政の主な動き …2
■古賀市での活動 …3
■予算議会の詳報 …4

田辺一城の 発信箱

地域の声を知事に伝える

□「手元」にある政治

「政治を身近に感じてもらいたい。政治家がどんな活動をしているのか、

そして、その活動が私たちの暮らしにどう関わっているのか、知ってもらいたい」

。この一念で、

2012年度も古賀市内の全域を駆け回り、回らせていただきました。政治は生活課題を解決するため、私たちの「手元にある道具」です。

□信念としての対話

政治は「聞く」ことから始まると考えます。民主主義のサイクルは、住民の皆さんと政治家の対話に始まり、課題を発見し、解決のための

政策を作り、その成果を発信し、再び対話をする。政治家としてこの信念があり、各地域での対話集会、多くの団体さんとの意見交換、各地の地域行事への参加を続けています。

□県の取り組み強化

2月、地元の農家の方々と意見交換をさせていただきました。その時の「声」を踏まえ、古賀の地域特性を生かした「農商工連携」を提示し、その支援策を

知事に求めました。4面参照。また、県の取り組みとして、高齢者の皆さんらの避難支援など市町村の防災体制強化が実現します。これは古

□対話と発信の継続

賀団地区や花鶴丘3丁目区のモデル事業を踏まえたものです。

県議就任からまもなく丸2年。この県政報告・第11号は2012年度の総集編として位置づけ、通常の倍のページ数で構成しています。ぜひ、「手元にある道具」としての政治を

実感していただくと幸いです。2013年度も「対話」と「発信」を実践していきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



田辺の政治活動を連日発信しています!

田辺かずき で 検索

ブログ(政治活動日記)

<http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>

公式ホームページ

<http://www.tanabe-kazuki.jp/>

facebook

<http://www.facebook.com/kazuki.tanabe>

Twitter

アカウント → @tanabe_kazuki

詳細は2〜4面で報告

防災体制を強化、医療・介護も前進！

公約を意識した問題提起 >>>>

2013年度予算に反映

【地域防災】

東日本大震災から2年が経ちました。私は「防災」を政治活動の大きなテーマとして位置づけ、公約にも掲げています。県議会では▽自主防災組織の立ち上げ▽福祉避難所の整備▽防災教育の充実▽広域避難訓練などを通じた住民の皆さんの主体的・率先避難の意識付け▽原子力防災体制の拡充▽老朽化している道路や橋梁の長寿命化▽応急仮設住宅の指針（ガイドライン）策定——などを求め、地域防災力の強化につなげてきました。

この一環として、2012年12月議会で、高齢者や障がい者の皆さんら災害時要援護者の避難支援について、古賀団地区や花鶴丘3丁目区のモデル事業を踏まえ、「個別計画」策定のさらなる促進を提起。知事は「（県事業の）充実強化を図る」と表明し、年明けのNHKでもこの方針に触れ、13年度予算が拡充されました。モデル事業は読売新聞なども報道しています。

要援護者避難支援の具体策は、市町村職員や行政区長にノウハウを提供し、県内20市町村のモデル地区で個別計画策定のためのワークショップを開催。また、市町村の自主防災組織の設立を促し、人材を育成します。ここでは新たに「消防団による自主防災組織支援事業」にも取り組みます。

【子育て・教育】

私自身が2人の子を持つ父親として、同世代の「声」を県政に届けることも重要な役割と考えています。12年6月議会では「新たな教育施策と家庭、地域の教育力向上」、同9月議会では「貧困の連鎖を防ぐ支援強化策」をテーマとし、知事や教育長に問題を提起しました。

13年度予算では、新たに家庭教育を支援するため、5、6歳の幼児、小1の子どもをもつ家庭に対し、生活習慣カードなどで規則正しい生活習慣づくりを促します。また、親から子への「貧困の連鎖」を断ち切ることを目的に、子どもの学習習慣の確立を目指すための施策が初めて作られました。

女性の就業促進に関し、県は仕事と子育ての両立支援に向けて「子育て応援宣言企業」の登録制度を実施。私は「男性の意識改革」の促進などの残された課題でもやり取りしており、引き続き取り組みます。なお、12年度は待機児童対策として古賀市が県事業を活用し、3つの保育所の増設策が決まりました。

【中小企業・農業】

所属会派の代表質問などを通じ、中小企業の振興や雇用対策に継続して取り組んできました。古賀市商工会・賀詞交歓会の挨拶でも触れましたが、県は中小企業金融円滑化法の3月の期限切れを見据え、県内の行政や金融機関などが連携した「県中小企業経営強化支援協議会」を設立、金融と経営改善の支援を実効的に進めてきました。また、経営改善計画の策定などを支援する「中小企業経営改善・金融サポート会議」の相談窓口を開設しています。

知事は13年度予算の提案理由説明でも、「景気・経済・雇用対策に全力で取り組む」と表明。新製品開発、販路開拓などのきめ細かい総合支援、金融と経営の一体的支援、商店街活性化などの多くの支援策を用意しています。

また、私は農林漁業は我が国の「根っこ」だと考えます。2013年2月議会で地元のご意見を踏まえ、知事に取り組みの強化を求めました。詳細は4ページをご参照ください。



【医療・介護】

私は「福祉の充実」を掲げ、医療・介護が古賀のまちづくりの強みになると指摘していました。

県は13年度予算で、地域医療の「核」となる福岡東医療センターの強化を進めます。「在宅医療のための情報ネットワーク推進事業」では、在宅患者、訪問看護、かかりつけ医、介護職、薬局などの関係機関の連携を電子システムの導入で効率化するソフトウェア開発を補助。さらに感染症指定医療機関としての施設整備、設備整備、運営費を補助します。

高齢者介護では、私の1年目の提案を受けて県が12年度の新施策として実現した地域共生型介護「宅老所」の支援事業が13年度も予算を拡充して継続します。

【道路・河川】

日々、市内各地域の皆さんから、河川、海岸、道路、通学路、信号機の設置などに関するご要望をいただいています。これらは私自身が現地へ赴き、調査のうえ、県や県警に確実に伝えています。

12年度、県が「基幹的な道路整備」のひとつに位置付けている主要地方道・筑紫野古賀線の道路建設促進期成会の総会にも参加。着実に整備が進んでいます。また、庄の交差点近くの横断歩道に新たに信号機が設置されるなどの地域要望の前進もみられます。また、12年7月の九州北部豪雨では、古賀市内を流れる大根川、青柳川、谷山川、薬王寺川も被災し、計8カ所で護岸が崩壊しました。福岡県土整備事務所が現場を調査し、復旧工事に着手。このほか河川の除草や浚渫も実施しています。



古賀市商工会・賀詞交歓会で中小企業振興策を説明

高齢者を支援しながらの避難訓練。2月、古賀団地区



対話

政治の基本は、住民の皆さんとの「対話」にあります。古賀市内の全8小学校校区を回り、地域住民の皆さんと意見を交換する「対話集会」を継続。2012年度も市内各地の



県主催の展示商談会で、「K-1」に取り組む皆さんと＝今年1月

公民館・集会所をお借りし、21カ所で開催しました。このほか、えんがわくらぶさん、NPO法人アートもんさんをはじめ、様々な住民の皆さんの集まりでも県政報告をさせていただいています。ご意見・ご要望を私の政治活動に生かしています。



交流

地域を駆ける。多くの住民の皆さんと会い、話をする——。12年度も時間の許す限り、古賀市内全域を回ってきました。

年中、総会や夏祭り、敬老会、運動会、文化祭、もちつきといった行政区の行事はもちろん、商工会や文化協会、体育協会、料飲店組合、子ども会育成会連合会、老人クラブ連合会、農家の方々、NPOなど多くの団体さんが取り組む地域活性化、青少年育成、防災・防犯、大根川の清掃をはじめ環境保全、スポーツ、飲酒運転撲滅など数えきれないほど多くの活動に参加し、「古賀の地域づくりの強さ」をあらためて実感しました。また、朝の駅立ちや街頭演説でも交流させていただきました。



市内各地のもちつきに参加＝12月、日吉台区

人が地域をつくり、地域が人を育てる。古賀に育ててもらった一人として、親として、この地域の政治家として、この魅力を次世代につなぐために尽力します。



商工会青年部の皆さんが企画した「古賀ビーチフェスタ」＝9月

視察・研究活動

知事への政策提言、政策立案のため、さまざまなテーマを設定し、各地を視察しています。例えば、東日本大震災の被災地・石巻市の視察を踏まえ、仮設住宅の指針策定や災害廃棄物の広域処理に関する提起を行いました。東京都足立区への聞き取りは子どもの学習支援の取り組みにつながっています。経済発展の著しいミャンマーなど東南アジアに進出を検討する県内企業の支援体制の構築も図っています。こうした国内外の情勢調査を生かし、県政の発展につなげます。

連携

地方のことは地方で決める「地方分権」が進む時代。過渡期の今、県と市が連携を密にすることが求められます。

県の予算・政策に関し、市長や市議会議員の皆さんとの勉強会を開催し、古賀を巡る状況についても意見を交換しています。また、県が農林漁業の「6次産業化」を推進する販路開拓の支援事業として開催した「ふくおか『農と商工の自慢の逸品』展示商談会」に、古賀市が取り組む農産物加工品「K-1（古賀の一品）」も参加するなど、県市の政策がつながる具体例も出ています。

さらに2月14日には、県議会で私が所属する厚生労働環境委員会のメンバーが古賀市内を視察。高次脳機能障がい者や身体障がい者の自立を支援する「福岡県身体障害者リハビリテーションセンター」（千鳥3丁目）と、動物愛護と管理の拠点「県動物愛護センター」（小竹）の実情を調査しました。

古賀での活動 — みなさんとともに



野幸山幸おのまつりで若者たちと＝11月

発信



政治活動の「見える」化が求められています。自らの活動を住民の皆さんに伝え続けることは、政治家の責務と考えます。対話集会に加え、公式ホームページとブログ、facebook、Twitterを使い、連日、政治活動とその意義を報告。議会における私の一般質問と知事の答弁についても質問当日に全文を更新しています。

さらに、県政報告書を2カ月に1回のペースで発行し、支援者の皆さんのご協力も得ながら市内の多くの皆様に届くように努めています。朝の古賀駅や千鳥駅、ししぶ駅でも配布しています。事務所にご連絡をいただければ、発行のたびに郵送させていただきます。バックナンバーは事務所にあります。



石巻市の災害廃棄物中間処理施設で現地調査＝5月

「県市連携」を促進！県議会が古賀を視察

「農商工連携」の促進を知事に提起!

2月議会
一般質問

古賀の特産品開発を後押し

田辺「販路開拓の支援を」

福岡県議会2月定例会

(2月26日～3月28日)の

一般質問で、私は小川洋知事に對し、地元・古賀市の重要な産業である農業の振興策について、今後の展望を問いました。特に焦点を

当てたのは、過渡期にある我が国の農業を考えるうえで重要なテーマである農商工連携・6次産業化です。

私は、古賀市の農産物を使った新たな加工品を生み出す「K-1(古賀の

小川知事に対する田辺の一般質問(2月定例会)



一品)の取り組みを示したうえで、特産品開発や販路開拓などを確実に支援し、地域活性化につなげる重要性を指摘しました。

知事は答弁で「市場動向を的確に捉え、ニーズに合った商品の開発を行い、その販路を確保していくことが大事。総合的な支援を通じて、6次産業化を進め、生産者の所得向上だけでなく、地域経済の活性化、雇用機会の創出につなげる」と述べ、地域における農商工連携の取り組みを支援す

観光戦略

魅力ある地域資源の発掘を 知事に薬王寺温泉を紹介

一般質問では、福岡県の観光戦略のあり方もテーマにしました。私からは、特に「県内各地域の魅力ある地域資源の発掘」を進めるように提案。知事は「観光客誘致のため、様々な地域の素材を掘り起こし、魅力ある新たな観光資源

として磨き上げることが必要」と認識を共有し、新たな地域資源を活用した観光振興に取り組み考えを表明しました。この際、知事に對し、「地元の薬王寺温泉にも足を運び、魅力を体感していただきたい」と強く要望。また、博多華丸・大吉の大吉さんが、

る考えを示しました。今回の提案は、地元の農家の皆さんとの意見交換でいただいた具体的なご意見・ご要望を踏まえたいものです。農商工連携を促進するためには、マーケティングを含め多様な課題に對応できる人材の確保・育成も求められ、私からはこの点も強く指摘しました。知事は強い関心を持ってくださり、農政に詳しい他の党派の先輩県議の方々からも激励と助言をいただくことができました。

こうした形で県と市の連携を図り、引き続き、地元の皆さんの「声」を県政に届けます。

小川知事(左前方)に県政のあり方を提案。壇上が田辺(3月7日)



<田辺かずきプロフィール>



1980年5月16日生まれ
1987年 暁の星幼稚園 卒園
1993年 花鶴小学校 卒業
1996年 古賀中学校 卒業
1999年 福岡県立福岡高校 卒業
2003年 慶應義塾大学法学部法律学科 卒業
毎日新聞社 入社/福井支局 配属
原発事故や災害弱者、日本人拉致問題などを取材
2006年 大阪本社社会部 配属
橋下徹・大阪府知事、大阪府警、甲子園などを担当
福祉問題、地域活性化、国際紛争などにも取り組む
2011年 福岡県議会議員 初当選
毎日新聞社 退社

【所属】厚生労働環境委員会
国際交流推進対策調査特別委員会
民主・県政県議団 政策審議会・企画委員
民主党青年委員会副委員長(沖繩・九州幹事)

【家族】会社員の妻、6歳の長男、2歳の長女

【最近の私事】歌は心をつないでくれます。2月、古賀の恒例行事「重譜まつり」へ。多くの市民の皆さんや子どもたちの歌声が響き、会場は温かいムードに包まれました。/ 長男も友だちと一緒に出演。私も「おさるのかごや」や「コスモスお花は」を皆さんとともに歌いました。/ 子どもは日々、どんどん成長してくれます。長女も自宅でいろいろな歌をずつと口ずさんでいます。親として頼もしい限りです。

古賀出身であることも伝えていきます。
今回の質問は、特に戦略性が求められる外国人観光客の県内周遊と宿泊者数の増加を視野に入れたもの。「アジアの玄関口」交通の結節点である福岡県が観光客誘致のために取り組むべきことを知事と議論しました。

■サポーター登録のお願い

県議としての活動を多くの人に知ってもらうため、皆さんのお力を少しずつ貸していただきたく思います。この県政報告をご近所やお知り合いに配布していただける方は、事務所(092-692-8510)にご連絡ください。

■後援会から

後援会員を募集しています。入退会は自由。後援会は2010年12月以降、ハガキなどの所定の用紙で登録いただいた方を会員とし、田辺自身の執筆による『県政報告』の全ての号を郵送しています。「政治家には説明責任があり、自らの活動の詳細を有権者の方にお知らせする義務がある」との強い思いからです。会員に特段の義務は発生しません。後援会規約をご希望の方、また会員であることが不都合な方は事務所までご連絡ください。なお「対話集会」にご参加いただいた方にも全ての号を郵送しています。